

# 「コロナ」に打ち勝ち 活動の前進をめざそう

第31回国賠同盟宮城県本部総会を開催します

- \* 安倍・菅改憲、「戦争する国づくり」を許さない
- \* 市民と野党の共同で、連合政権の実現を
- \* 都議選、仙台市長選、宮城県知事選で勝利しよう

300人の県同盟建設、4400筆の請願署名の実現をめざします



No.564号付録  
宮城版No.386  
2021年6月

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
宮城県本部

980-0022  
仙台市青葉区五橋  
1-5-13  
県労連会館3F  
国民救援会気付  
☎022-222-6458

「コロナ」に負けない新しい活動をすすめます

「議案書」は、不屈7月号に掲載します。みなさんからの、ご意見・提案をお待ちします。

## 第31回宮城県本部総会

日時 8月7日（土）14時～

会場 県労連会館2F 会議室（予）

大生らの働きかけに接し、千代子は「動きの時代が来ている。どちらかの方向に動かねばならない」と書き送っています。

藤田さんは、「彼女の思想的成長の開始は尚綱から」と、最近の調査・研究によってますますその事が明らかになったと述べました。

②東京女子大 II  
羽ばたく千代子  
〈わが国初の女子大社研〉

東京女子大は、英語専攻部の他に、社会学部も置かれ、少壮の社会科学系教師陣が多数教鞭をとっていた。千代子はここで寄宿舎に入り、学校の図書館では、これまで接したことのない社会科学書やプロレタリア文学などをむさぶるように学習を進めます。

こうして入学の年(1925年20歳)学内の社会科学研究会の結成に参画、数人の「社会科学研究会」が誕生しました。

〈「婦人論」を読む〉

この年の12月、千代子はペーベルの「婦人論」を読んで「女の人が覚める時、男子の催眠術から、そして自己に対する催眠術から覚める時、どんなにすばらしい世の中が展開されて来るでしょう」と書くまで成長します。

〈社研の組織化へ〉

千代子らは、寄宿舎の個室(3畳)を会場にして学習する。読むのは「共産党宣言」「空想から科学へ」など。数人から出発したサークルは数十人にまで増大しました。

③民衆の幸福のために

在学3年の夏、郷里諏訪の「山一林組」の労働争議を支援します。戦術の失敗と、資本金団体の総攻撃の前に争議は敗れました。千代子は、民衆と労働者の幸福のために、自らも闘いの実践に加わっていくことを決意します。

④嵐の中へ

第一回総選挙直後の2月29日、日本共産党に入党。ただちに中央事務局に所属し、幹部との連絡、重要文書の管理、印刷物のガリ切りなどの任務につきましました。そして、3・15事件で逮捕されます。

〈獄中闘争〉

拷問で傷ついた体を癒し、「資本論」の学習を開始。そして、獄中の同志たちとの連絡を取り始めました。同志たちはお互いが励ましあい、

連絡を取り合いました。そのキーマンが千代子でした。

〈転向攻撃の中で〉

収監されて一年後、水野成夫が変節。夫の浅野晃も水野に同調。検事側は千代子を「転向」に追い込む策動を進めてきました。7月下旬、拘禁性精神病を発症し、「執行停止」のまま特高監視の松澤病院に収容されました。

千代子はそこで懸命に立ち直りつつありました。その過程で肺炎を併発、誰にも看取られることなく24歳の生涯を閉じました。

(1929年9月24日)

学習講演会 「伊藤千代子の生涯」 5月30日  
講演 藤田廣登氏



講演する藤田廣登さん

5月30日、エルソーラ仙台で開催して、40数人が参加。オンライン(ZOOM)で7人が参加しました。当初は、昨年4月4日の開催予定でしたが、2年越しの開催になりました。

はじめに、プロモーション・ビデオ(DVD)を鑑賞。向学心に燃え、仙台で「新思潮」に出会い、東京女子大に進学。科学的社会主義を学んで社会進歩の活動に参加。3・15の大弾圧で検挙され、松澤病院で病死した、伊藤千代子の生涯をたどりました。

このDVDは、500円で、販売しています。



「あいさつ」で、横田有史国賠同盟本部会長は、コロナ禍で、国民が苦しんでいる時に、日本学術会議会員の6人の任命拒否、「国民投票法案」の強行で改憲をめざし、「戦争する国づくり」を推進。そして原発汚染水の海洋投棄と原発再稼働、高齢者医療費2倍化、「水道」の民間売却など、国民の命と生活を脅かす

菅政権の悪政に対抗して運動をすすめるために「伊藤千代子の生涯」を学ぶことは大切だ。そして劇映画「わが青春つぎるとも」の制作・上映運動をよびかけました。



藤田廣登さんの講演

①尚綱女学校時代の千代子について、

学校の寄宿舎を出て、石切町・松生先生宅へ転居する。無二の親友となる斉藤直子と同居して、たんなる友人ではなく同志的關係として共に成長する。



女性部・仙台支部

### 第11回近現代史学習会

4月は、コロナでの「蔓延防止重点措置」期間となり、仙台市サポートセンターが使用できなかったため急遽中止。5月はやはりサポートセンターの会場予約が取れず、会場を県労連会館2Fに移して行いました。参加者12名。

「第10章 世界恐慌と軍縮の破綻」、レポートは三島さん。

### 「日本近現代史を読む」⑪

1925年には中国に進出した日本の綿紡績企業でのストライキから反帝国主義運動が全国に広がった。北京の北方軍閥を打倒して全国を統一するため

の北伐が、蒋介石を総司令とする国民政府によって開始された。北伐は中国の国家統一を図るものであり、同時に日本や欧米諸国から奪われた特権・権益を回収する運動でもあった。田中義一内閣と軍部は、山東半島への権益防衛と満州への北伐軍接近阻止をねらい、居留民保護を名目に1927年山東出兵を行う。満州と内蒙古の権益を確保する「満蒙分離」を決定。「満蒙の権益」を独占的に確保する目的で、満蒙出兵の口実をつくるために張作霖を爆殺し、中国軍の犯行であると主張（この真相は天皇などが、戦後になるまで国民には秘密だった）。こうして日本が19世紀的な膨張主義政策を取ったのに対し、

欧米諸国は民族自決権の潮流を避けたいものとし、正面から衝突することを避けながら権益を守る政策をとった。この政策の違いが、次第に日本と欧米諸国との対立に発展する根本的な原因の一つになった。

第一次世界大戦後の日本は1920年に恐慌に見舞われ、1923年の関東大震災も日本経済に大きな打撃となった。1927年金融恐慌を経て、中小銀行を吸収した三井・三菱・住友・安田・第一の金融支配が確立した。1929年、世界大恐慌は金解禁・緊縮財政政策とも重なり、株価・物価は大暴落を遂げ、生産低下・国際収支の悪化となった。輸出総額の20〜30%を占めていた絹製品の輸出が激減。繭価格の暴落となり、

繭を生産する農村地帯に大打撃となった。1931〜32年には失業率が15%になる。農村も価格低落で窮乏、税金（地租）は変わらず、地主は小作にその負担を転嫁。1931年と34年には水害・冷害による大凶作が追い打ちをかけ、欠食児童や娘の身売りが続出した。

第一次世界大戦後のワシントン軍縮条約後、1930年にはロンドン会議での調整が試みられた。海軍司令部は、補助艦総トン数を対米7割を譲らず、結果6.975割等の妥協案で妥結するが、条約調印後「統帥権干犯（天皇の統帥権に干渉して権利を犯す）」との右翼・在京軍人会や陸軍による倒閣戦術が起こる。深刻な不況、政党政治の腐敗

も政党政治否定の思想を広めることとなつていった。

おりしも30日に行われた講演会「歴史の証言者 伊藤千代子」。千代子の生きた時代がこの時代であった。千代子は教師として出会った欠食児童に心を寄せ、みんなが豊かに暮らせる社会をつくるにはと社会科学の学習に努め、日本共産党に入党した。3・15の大弾圧（1928年）で囚われ、翌年、変節した夫の「解党主義」にはなびかず、「拘禁精神症」を発症して、移送された松澤病院にて肺炎で死亡した。5月の学習会では、彼女の生きた時代背景を学んだ。

次回は6月28日（月）14:00、仙台市サポートセンターにて行います。

### 「本を焼く者はやがて人間も焼くようになる」 1933年に ベルリンでおこった焚書 中島 晃

つい先日、京都で弁護士をやっている大学同級の中島晃氏より、京都市弁護士会の仲間内の「四一会通信82号」に寄稿した「論稿コピー」が寄せられました。1933年にヒトラー政権が誕生し、ドイツの学生が「非ドイツ的書籍は全て燃やせ」という大規模な「焚書」運動が展開された。日本では、治安維持法により小林多喜二が拷問・虐殺された同じ時期です。その後、世界は大戦争に突入する歴史を辿ります。

今日の日本では、「あいちトリエンナーレ2019」の「表現の不自由展・その後」

が展示の一つである「平和の少女像」を、河村たかし名古屋市長や当時の菅官房長官が問題視して中止へ。更に、主催者である大村愛知県知事の「行政機関が展示内容に口出ししては芸術祭にならない」という発言に対し、ヒトラー・ナチスの礼賛者である高須クリニック院長と河村市長が呼びかけた県知事の「リコール運動」（今日、公判中ですが）「表現の自由に対する、権力のあからさまな侵害行為」と言わざるを得ません。そして、菅氏が総理大臣になった直後の「日本学術会議会員推薦者6名の任官拒否」。

中島氏は、「こうした学問研究の自由に対する非常に乱暴な侵害行為の行き着く先に、戦慄すべきものを感じる」と述べています。ぜひ目を通して下さい  
（県本部会長 横田 有史）

1、おそらく、あまり知られていないことだと思われるが、1933年5月10日、ドイツ・ベルリンで、数千人の学生がペーベル広場に向かって行進し、広場の中央に高く積み上げられた薪の山に火がつけられ、そこに学生たちが次々と書籍を投げ入れて燃やすという「焚書」が行われた。焚書の途中で、主催者の学生から焚書の、目的が説明された。それによると、ドイツ文学の純粋性を守るために、「非ドイツ的」な書籍と文書をすべて燃やさなければならぬということであった。

フロイト（1856〜1939）やレマルク（1898〜1970）などの著者の名前が次々と読み上げられ、それがいかに「非ドイツ的」であるかが告げられた後、書籍がどんどん燃やされていった。集まった人々は、まるでスポーツを観戦するように喝采し焚

書は何時間も続けられた。こうした焚書は、ベルリンだけではなく、ドイツ国内34の大都市で行われ、ドイツ全土に広がった。

1933年1月、ヒトラーが政権を握ると、2月27日、ドイツの国会議事堂が放火のため炎上する事件がおこり、2月28日には緊急令によって憲法の基本的人権条項を停止し、共産党は事実上非合法化された。

こうした状況のもとで行われた、学生たちによる焚書は、2万5千巻を上回る「非ドイツ的な」本を燃やし、国家による検閲と文化の支配の到来を告げる前触れとなった。

1933年にベルリンで起こった焚書のこと、最近、モリー・グブティル・マニングの「戦地の図書館、海を越えた1億4千万冊」(創元ライブラリー)を読んで初めて知ったことだが、ナチスによるユダヤ人大量虐殺のホロコーストの前史として、言論と文

化に対する暴力的支配が行われたことを見逃してはならないと考える。

ハイン(1797-1856)は、戯曲「アルマンゾル」の中で、「焚書は序章に過ぎない。本を焼く者はやがて人間も焼くようになる」という警句を残している。ハイン自身もまた焚書の対象になったが、ナチスがその後、ホロコーストを引き起こしたことは、ハインの警句どおり歴史が進行したことを私たちに教えている。言論・表現の自由という人間の精神活動の根幹にかかわる自由が暴力的に踏みじられることが、その後、いかに悲惨な結果をもたらすかをまざまざと示している点で、1933年に起こった焚書は、重要な歴史の教訓として銘記される必要がある。

2、ここで述べた焚書は、85年余り前におこったことであ

り、現在の私たちにとって無縁の出来事であるかのように見える。しかし、決してそうではない。

いま、地球規模で見ると、焚書という形をとらないまでも、世界各地で言論・表現の自由がさまざまな形でふみにじられ、その事実を伝える報道の自由すら奪われるという事態が進行しており、それと同時に、少数民族をはじめ、宗教や民族が異なることでさまざまな迫害が行われ、ときに民族浄化とよばれる、大量殺戮までもひきおこしている。

日本でも、戦前の治安維持法のもとで、ベルリンでの焚書がおこったと同じ1933年に、作家の小林多喜二が官憲によって虐殺されたのをはじめ、多くの人々が思想・良心の自由を奪われ、官憲の拷問などによって生命を落とすという痛ましい事件がおこった。このことは、言論・表現の自由やその基礎にある思想・

良心の自由(むろん、信教の自由も含む)という人間の精神活動の根源にある自由をふみにじることが、やがて人間の存在そのものを否定し、生命さえ奪うことに行き着かざるを得ないことを示している。

さて、言論・表現の自由をめぐる日本の現況を見るとき、「あいちトリエンナーレ2019」において、「表現の不自由展・その後」が中止となったことにはじまり、その後におこった一連の事態は重要な問題を想起している。

「あいちトリエンナーレ2019」は、2019年8月1日に開催されたが、その展示の一つ「表現の不自由展・その後」が中止に追い込まれた。その直接的なきっかけとなったのは、河村たかし名古屋市長が「表現の不自由展・その後」の展示一つである「平和の少女像」を問題視し、会場となった愛知芸術センターを訪れ、少女像の展示中止を

大村秀章愛知県知事に求める」と表明したことである。

これと並行して政府閣僚なども次々とこの問題に言及し、菅義偉官房長官(当時)が補助金交付決定の見直しについて発言した。これを受けて、この芸術祭の芸術監督である津田大介氏のもとに、抗議や中止要請、メールが殺到し、中にはテロ予告や脅迫ともとれるものもあることから、氏は展示の展示の中止を検討すると述べ、8月3日、芸術祭実行委員長の河村知事が中止を発表するに至った。

ここで問題とされねばならないことは、今回の事件が河村名古屋市長の介入や菅義偉官房長官の発言にみられるように国や地方自治体などの公権力による「表現の自由」に対する露骨な侵害であったことである。そのことをあいまいにして、「平和の少女像」の展示については、慰安婦をモチーフにしていることから

激しい論争的になっており、展示が中止になったのはやむをえないようにとらえることは、表現の自由の重要性に目をそらすものと言わねばならない。

3、大村愛知県知事が「行政機関が展示内容に口出しをしては芸術祭にならない」と発言して、表現の自由が尊重されねばならないという当然の原則を明確にしている事は重要である。

こうした大村知事の発言を問題視して、知事に対するリコール運動が開かれたことは周知のとおりである。ところが、このリコール署名をめぐって、同一筆跡が8割を占める大規模な不正が明らかにあり、県選挙管理委員会が地方自治法違反で刑事告発するという問題にまで発展した。

このリコールを呼びかけたのは、「高須クリニック」の高須院長や河村名古屋市長だ

が、高須氏は、ヒトラー・ドイツを礼賛する発言を繰り返して、南京大虐殺もアウシュビッツもねつ造と発言してきた人物であり、「表現の不自由展・その後」を攻撃した河村市長とともに、表現自由に対するあからさまな侵害を公然と押し進めてきた。

このような民主主義を蹂躪する言動をしてはばからぬ人々によるリコール運動が署名の偽造まで行っていることをみると、そこには理性とモラルの欠如という明らかな精神の退廃が存在することを見逃してはならないだろう。

今回のリコール運動めぐる大規模な不正の事実、表現の自由という人間の精神活動の根源にかかわる権利を侵害することが、そうした人権侵害にかかわる人々の理性と精神を狂わせずにはおかないことを同時に明らかにしたという点でも、歴史の教訓として銘記される必要がある。

4、最初に引用したマニングの「戦地の図書館、海を越えた1億4千万冊」の内容を紹介しておこう。ナチス・ドイツは、第二次世界大戦の終結時までには発禁・焚書によって、1億冊を超える書籍をこの世から消し去った。これに対して、アメリカは寄付活動やパーパックスを発行することで、約1億4千万冊の本を戦場に送り続けた。

ヒトラーは、「非ドイツ的な」本を燃やしたが、アメリカでは、兵士の士気を保つうえで、本が必要だと考えて、戦地に本を送るために兵隊文庫を出版した。兵隊文庫はポケットサイズのパーパーバックであるが、これは、現在のパーパーバックの原型となった。戦地に兵隊文庫が届くと、兵士は我先に本を手に取り、それを読んで無聊(むりょう)を慰め、腹の底から笑い、元気になった。兵士は軍服のポ

ケットに本を忍ばせて、前線に立った。

第二次世界大戦は、本を焼いたナチス・ドイツと戦う戦場の兵士にアメリカが大量の本を送り続けるという史上最大の作戦を遂行して、勝利した歴史でもある。戦地に送られた本は、戦意を高揚させるために書かれたものばかりでなく、多様な本が送られた。ナチスを賛美する本以外であれば、どんな本でも送った。勿論、軍部は本の選定に関与しようとしたが、その介入を極力排除する努力がされた。なぜなら、ナチスとの戦争は、民主主義と自由を守るための闘いであつたからだ。その活動の詳細については、ぜひ、「戦地の図書館」を読んでいただきたい。

最後に付言すると、「あいちトリエンナーレ2019」に介入した当時の菅義偉官房長官が、首相となった直後に

日本学術会議が推薦した会員のうち、6人の任命を拒否したことは、学問研究の自由に対する非常に乱暴な侵害に踏み切つたというほかないが、その行き着く先に待ち受けている事態は、まことに戦慄すべきものになるのではないかと考えるのは私だけではないだろう。

## 水の値段について

水道料金は、国内で最高水準であることは知っていた。今回、検針・請求票を見てみた。4立米で、上下水合計2,310円である。1立米当たり577円。

プロパンガスも見た。2・3立米で1,363円である。1立米当たり597円。

価格は近いことに驚いた。私は「節約」は、電気とガスには注意し、水は考えなかつ

## 編集後記

▼5月30日に開催の「講演会」で、87歳の藤田廣登さんの元気な講演は、千代子に対する思い入れにあふれ、感動することが多かった。千代子の劇映画の制作・上映運動に打ち込んでいる姿に、年齢を感じさせない迫力があつた。▼今に「使つてはいけない。トイレは外でしょう。」

さて、この水道料金は、はたして「正当」なのだろうか。なぜ、この価格なのかは、知らない。また、この価格なら、民間に売却しても、民間は困らないだろう。少しサービスを下げれば、利益は何倍にもなる。まさに「水商売」私の願いは、安心・低価格の水を使いたいことだ。

仙南支部 佐藤ひろし

回、オンライン(NOOM)を使った。ご協力の皆さんに感謝。運動の中心に置くことは無理とは思いますが、なんとなく魅力的だ。▼さて、「オリパラ」はどうなるのか。絶対に止めさせたい。もう1ヶ月の余裕しかない。でも、止めるのに期限はない。科学的な判断力を持たない連中を退場させよう。▼7月4日に、小池都政に審判が下る。良い結果を得るために、少しでも繋がりを生かした支援が大切。がんばろう ▼第31回県本部総会が開催される。2年つづけて「コロナ」下である。今年は、「コロナ」下でも、しっかりと我々の要求と運動をすすめる方針を獲得したい。皆さんからの、ご意見・提案などをお願いします ▼厚くなります。お体を大切に